

イタリア・フランス短期滞在を終えて

理学系研究科 物理学専攻 博士課程 2年 上岡修星

私は 2019 年 6 月 21 日から 2019 年 7 月 4 日にかけてイタリアのエリ
ーチェで行われた International school of subnuclear physics 2019 (ISSP 2019)
への参加ならびに、フランスのトゥールーズにある強磁場総合研究所(LNCMI)
の Carlo Rizzo 教授の研究室を訪れた。

ISSP 2019 では、理論、実験の垣根を超えて世界中から集まった素粒子
分野の若手研究者たちと 1 週間に渡って昼夜を問わず互いの研究について議論
を交わした。ノーベル賞受賞者なども多く参加しており、研究へのアドバイスだ
けでなく研究者としての歩み方についても貴重な話を聞くこともできた。

LNCMI での滞在では、私が行っているパルス磁石と光共振器を用いた
真空の複屈折性の探索実験について、この実験の先駆者の一人でありパルス磁
石の専門家である Carlo Rizzo 教授と現状の課題や今後の実験の進め方の方針の
議論を行った。LNCMI のメンバーの前でセミナーをする機会もいただき、双方
向的な情報交換ができ非常に有意義であった。

今回の訪問に際して、Carlo Rizzo 教授を紹介して下さった浅井祥仁
教授、現地でお世話して下さった Carlo Rizzo 教授、LNCMI のメンバーの皆
様、滞在を支援して下さった大学関係者の皆様に感謝いたします。



ISSP 2019 での議論の様子



LNCMI の外観